

編集後記

暖冬が続いたこの冬も1月に入って寒波の襲来で一転して寒い冬となった。東京にも珍しく大雪が降ったし、日陰の雪が2週間も残っていた。しかし一方では梅の便りも聞こえはじめ、春もそう遠くはないことを思わせる。

2月号は失調症の特集である。失調症、特に小脳性運動失調症は決して少なくない疾患でありながら、これまで仲々きめ手となる治療法がないなどの理由でリハビリテーション医学の上で十分論じられてきたとはいえない。しかし最近薬物療法（TRHなど）の可能性も見えてき、運動療法、作業療法でも新しい工夫がなされるなどの動きもあり、興味をもたれてきている。

まず山下氏他には臨床的に失調症の分類と症候論を詳しくのべていただき、ついで島村氏には最近著しく進歩した小脳の生理を中心に運動失調の神経生理をわかり易くまとめていただいた。間野氏には運動失調症の障害評価と薬物療法について、最新の知見をも含めてのべていただいた。間嶋氏他は失調症の理

学療法について、吉田氏他は同じく作業療法について、従来のもに新しい試みを含めたものをまとめていただいた。いずれも力作であり、この特集が失調症患者のリハビリテーションの実際に大きく貢献することを願っている。

千野氏の巻頭言は1980年代の課題としてリハビリテーション専門医制度の確立をあげておられるが全く同感である。特にチームワークとの関連において、リハビリテーション専門医が多数輩出することが他の専門職の向上にとっても重要だとされたことは卓見というべきであろう。

本号ではこの他吉田氏の講座「脳出血の病理」、土肥氏他の講座「呼吸の運動学」、4篇のオリジナル論文と非常に充実した内容となった。これまでやや遅れぎみだった投稿論文の掲載も今後早くなる見込みなので、ぜひ多数の投稿を期待したい。

（上田 敏）

次号予告（第8巻第3号）

巻頭言	これからのリハビリテーション……………川崎医大	土肥 信之
特集	厚生行政におけるリハビリテーション行政の 問題点とその対策……………厚生省社会局	板山 賢治
	身障者雇用の問題点とその対策……………労働省職業安定局	古山 芳雄
	地方自治体におけるリハビリテーション行政の 問題点とその対策……………横須賀市キリスト教	阿部 志郎
	リハビリテーションに携わる医師の立場から リハ行政を考える……………宮城県拓杏園	今田 拓
	アンケート／リハビリテーション行政への要望……………	本誌編集同人
講座	脳卒中（3）脳出血、脳梗塞、くも膜下出血の 成因と病理Ⅱ……………郡大・病理	吉田 洋二
	リハ医のための呼吸器入門（3）肺理学療法の 基本的手技とその実際……………国療東京病院	芳賀 敏彦
一頁講座	リハビリテーションと法律（3）判定…大阪府身障相談所	沢田 啓祐
研究と報告	Cryotherapy—基礎的研究および臨床例の 検討……………千大・整形外科	北原 宏・他
	Impedance 法による安静時下腿血流量測定の 基礎的検討……………東京・板橋ナースングチーム	片山文路・他
	スポーツを通してみたわが国の身障者のリハビリ…筑波大	中川 一彦
学会報告	第25回関東リハ懇話会……………横浜市大	大川 嗣雄

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
小 池 文 英
杉 山 尚
砂 原 茂 一
津 山 直 一
水 野 祥 太 郎

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
千 野 直 一
土 屋 弘 吉
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
江 口 壽 榮 夫
荻 島 秀 男
小 野 啓 郎
加 倉 井 周 一
河 邨 文 一 郎
五 味 重 春
斉 藤 正 也
沢 村 誠 志
武 智 秀 夫
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
間 得 之
長 谷 川 恒 雄
橋 倉 一 裕
福 井 閑 彦
三 島 博 信
渡 辺 英 夫
飯 田 卯 之 吉
田 中 照 子
小 川 孟
野 村 敏
小 島 蓉 子
笹 沼 澄 子
鈴 木 明 子
高 田 玲 子
林 玉 子
土 屋 和 夫
松 村 秩

（細田，山田）